

アサリ人工稚貝を育てています。

養殖研究部 中野平二

当センターでは今年7月3日から、フラプシーを使ったアサリ人工稚貝を育てています。このアサリは資源が減少している八代市地先に放流するため八代市が事業化し、ヤンマーマリンファーム(大分県国東市)が殻長1mmまで生産したもので、当センターではヤンマーマリンファームと共同研究として、アサリ人工稚貝を1mmから10mmに育てる試験を行っています。



水産研究センターに設置されているフラプシー

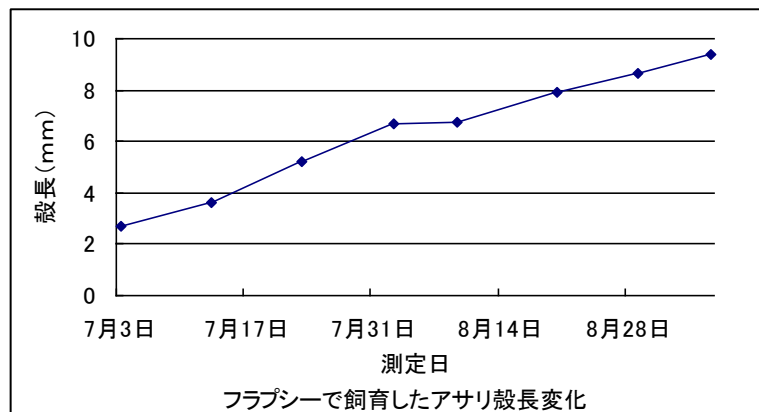
フラプシーは、二枚貝種苗(稚貝)の海上中間育成施設(Floating Up-weller System)の通称です。フロートタイプのイカダと飼育器で構成されており、海水中に浮遊している天然植物プランクトンを効率良く給餌しながら、二枚貝種苗を高密度に飼育することができます。

3ヶ月間フラプシーを使ってみて感じたことは、この方法で飼育するとアサリの成長が早く、歩留りも良く、飼育管理が簡単ということです。具体的には、成長については最も早い群で殻長約3mmのアサリが2ヶ月後には放流サイズの約10mmに達し、通常の数倍のスピードで成長しました。生残率は試験区により幅があり35%~72%でした。また、毎日の飼育管理はアサリが入っている容器の中に溜まった汚れ(主にアサリの糞)を水道水で洗い流すだけでした。さらに飼育しているアサリの状態が簡単に目で確認できますので、精度の高い飼育管理ができました。

一方、課題としては、台風時にはフラプシー内のアサリを陸上に移動する必



フラプシーで成長したアサリ



要があること、アサリの成長が早いため、フラプシーの中でアサリが高密度になりやすいので、適宜、放流するなどして密度調整が必要なこと、またアサリに成長差が発生し、2週間おきに選別を行う必要があり煩雑であること等が感じられました。

今年初めてフラプシーを使ってアサリ稚貝の飼育を行っていますが、9月28日に第1回目の出荷として殻長10mmのアサリ稚貝を39万個、10月16日に第2回目の出荷として、殻長10mmのアサリ稚貝31万個を八代市に引き渡しました。今後もアサリ稚貝の飼育を継続する予定ですので、最終的には100万個以上のアサリ稚貝を放流用として生産することが出来ると思われれます。

今回の試験でフラプシーを使ったアサリ稚貝の大量生産は非常に効率的で有効性が高いことを感じました。当センターでは今後もフラプシーを使ったアサリ稚貝の生産技術開発に取り組んでいきたいと考えています。